

3 地域別の動向

(1) 北海道



北海道地域では、景気は持ち直しの動きが緩やかになっている。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況であり、持ち直しの動きが緩やかになっている。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方修正、 は下方修正)

前回調査からの主要変更点

	前回(平成18年11月)	今回(平成19年2月)	
住宅建設	おおむね横ばい	減少	

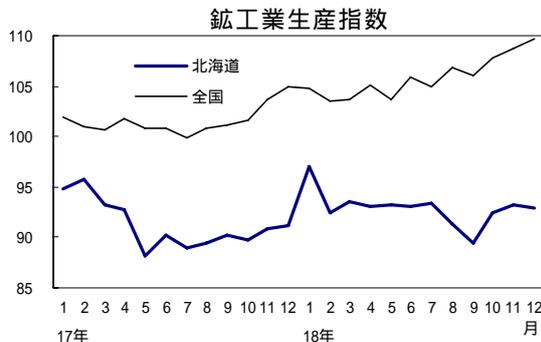
1. 生産及び企業動向

(1) 第一次産業は、生乳生産は前年を下回っており、水産業の水揚量は前年を上回っている。

生乳生産は、牛乳等向けは増加したものの、乳製品向けが減少したことから、総量では、920,273t と前年比で4.8%減となった。水産業(主要11港主要品目)は、ほっけが前年を下回ったものの、すけとうだら(生)やさんまが前年を上回ったことから、水揚量は前年を上回っている。

(2) 鉱工業生産は緩やかに増加している。

食料品・たばこは、道産米は本州向けを中心に引き続き好調であったものの、水産加工品や冷凍水産物の動きが鈍かったため、減少している。パルプ・紙は、印刷用紙(塗工)や新聞巻取紙が一部生産調整のため、減少している。電気機械は、無線通信装置や配電盤等が前期の反動等から減少している。窯業・土石は、セメントなどが増加している。金属製品は、公共工事向けの橋梁や鉄骨の受注が伸びたことから大きく増加している。また、石油・石炭製品では、昨年夏に一部工場で起きた設備の不具合の反動増から増加している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
食料品・たばこ	26.5	1.2	3.1	1.9	2.4
パルプ・紙	12.1	1.4	3.0	1.4	6.8
電気機械	9.5	9.7	9.7	10.7	6.1
窯業・土石	9.0	4.2	3.5	4.4	3.5
金属製品	9.0	11.1	16.7	12.8	16.6
鉱工業	100.0	1.8	1.6	1.6	0.3

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

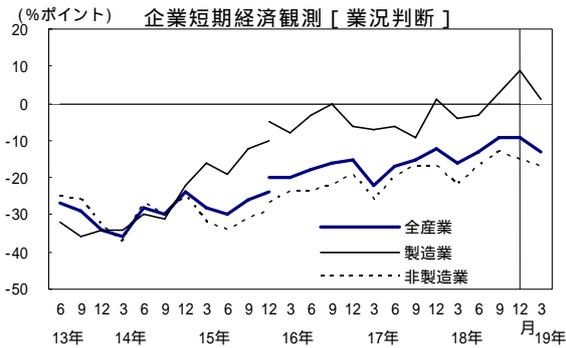
2. 10~12月期は速報値。

(備考) 1. 12年=100、季節調整値。

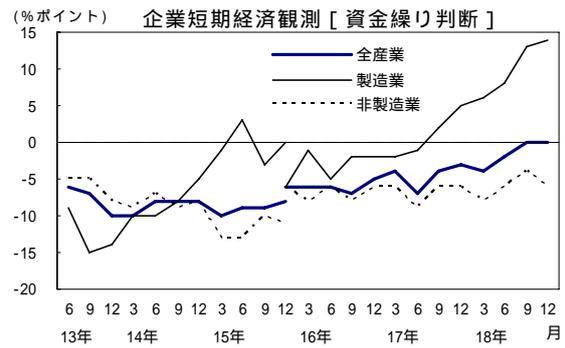
2. 平成18年12月の北海道は速報値。

(3) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が横ばいとなっており、資金繰り判断は「楽である」と「苦しい」とが同数となっている。

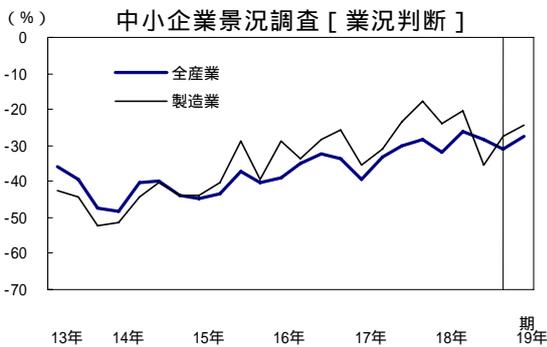
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。19年3月は予測。15年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。15年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。19年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

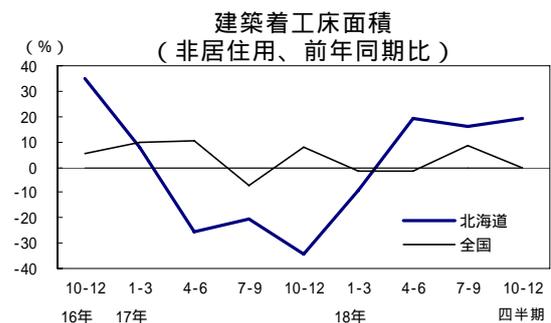
「鉄鋼及びその周辺メーカーは好調を維持しているものの、総体として取扱数量の増加はみられない。また輸出入コンテナもほぼ前年並みの数量で推移している(輸送業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(4) 18年度の設備投資は前年度を下回る計画となっている。

企業短期経済観測調査[設備投資(12月調査)]

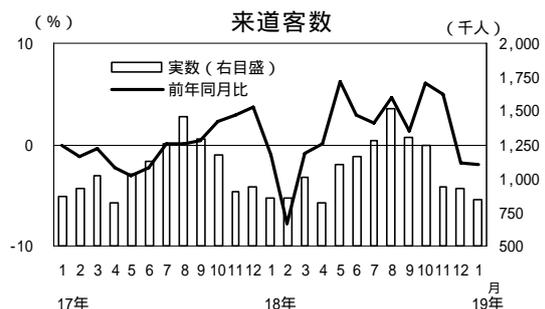
	(前年度比、%)	
	17年度実績	18年度計画
全産業	12.5	4.8(3.0)
製造業	39.8	17.0(1.9)
非製造業	0.5	2.2(5.4)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。電気・ガスを除く。



(5) 観光は増加している。

来道客数は、雪不足の影響からスキー場の開業が遅れたことから、12月、1月は前年を下回ったものの、引き続き旭川・知床への入り込みが好調なことや、新規参入を背景とした航空運賃の低下等から、増加している。



(備考)北海道観光連盟調べ。

(1) 北海道

2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

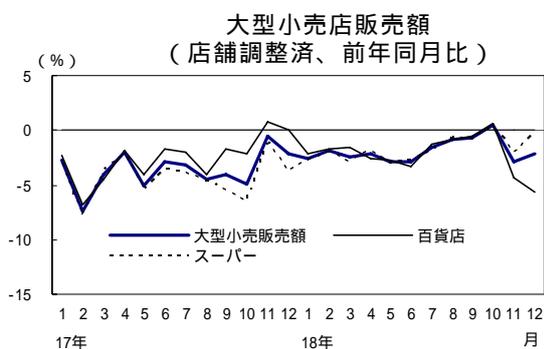
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、10月は、月後半に気温が低めに推移したことから秋冬物の衣料品の動きが良かったことや、地元プロ野球チームの優勝記念セール効果から飲食料品やその他の動きも良かったことから、全体としては前年を上回った。11月は、飲食料品は、歳暮ギフト需要の前倒しや、物産展等の催事効果から前年を上回ったものの、月を通して気温が高めに推移したことから衣料品の動きが鈍く、全体としては前年を下回った。12月は、昨年が厳冬で冬物重衣料が大きく伸びた反面、今年は暖冬で衣料品の動きが鈍かったことや、年末商戦の時期に天候不順の影響で客足が鈍ったことなどから全体としては前年を下回っている。

スーパーは、飲食料品は、野菜、精肉、果物等に動きがみられたものの、暖冬の影響から衣料品や家庭用電気機械器具等の動きが不調だったため、全体としては前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

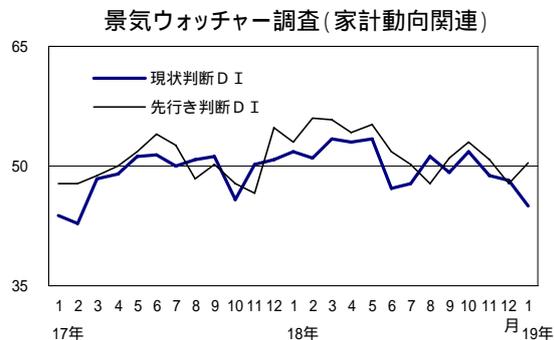
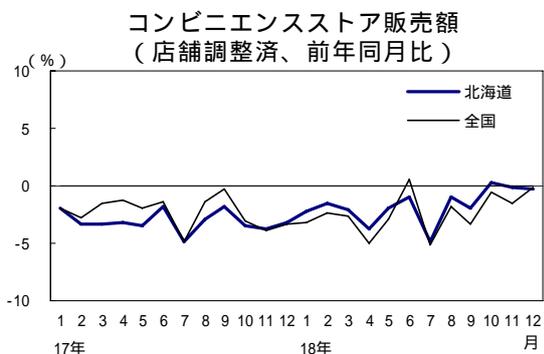
「今年は雪がほとんど降らず、また気温も高いため、タクシーの利用客が減少している。夜の繁華街も閑散としており、スナック等の経営者からも暇だという話を多く聞いている(タクシー運転手)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



(前年同期比、%)

	18年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	2.3	2.6	1.0	1.6
百貨店	1.8	2.9	1.0	3.4
スーパー	2.6	2.5	1.1	0.6
コンビニ	1.9	2.2	2.6	0.1
景気ウォッチャー	52.1	51.2	49.5	49.5

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は減少している。

給与は前年を上回ったものの、貸家、分譲が下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は18年度累計で見ると前年度を下回っている。

